

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT
日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日

Date of Application:

2001年10月 4日

出願番号

Application Number:

特願2001-308655

出願人

Applicant(s):

セイコーエプソン株式会社



RECEIVED

JAN 28 2002

Technology Center 2600

U.S.S.N. 09/973,914

MATTINGLY, STANGER + MALUR

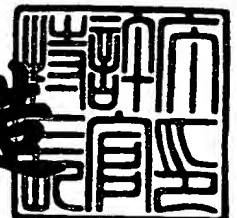
(703) 684-1120

DKT: KYO-101

2001年11月 9日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3098466

【書類名】 特許願

【整理番号】 13353601

【提出日】 平成13年10月 4日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 13/12

【発明の名称】 マルチファンクションプリンタ、及び、その制御方法

【請求項の数】 20

【発明者】

 【住所又は居所】 長野県諏訪市大和三丁目3番5号 セイコーエプソン株式会社内

 【氏名】 小 柳 誠

【特許出願人】

 【識別番号】 000002369

 【住所又は居所】 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号

 【氏名又は名称】 セイコーエプソン株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100075812

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 吉 武 賢 次

【選任した代理人】

 【識別番号】 100088889

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 橋 谷 英 俊

【選任した代理人】

 【識別番号】 100082991

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 佐 藤 泰 和

【選任した代理人】

 【識別番号】 100096921

【弁理士】

【氏名又は名称】 吉 元 弘

【選任した代理人】

【識別番号】 100103263

【弁理士】

【氏名又は名称】 川 崎 康

【選任した代理人】

【識別番号】 100107582

【弁理士】

【氏名又は名称】 関 根 毅

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-311572

【出願日】 平成12年10月12日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 087654

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0103098

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 マルチファンクションプリンタ、及び、その制御方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

スキャナとプリンタとが一体化されたマルチファンクションプリンタであって

前記スキャナで読み取ったスキャンデータを格納するための、第 1 データ格納部と、

前記第 1 データ格納部に格納されているスキャンデータに基づいて、印刷処理に適したデータ形式である印刷イメージデータを生成して、この印刷イメージデータに基づいて、前記プリンタの印刷ヘッドを移動させながら、前記印刷ヘッドを駆動した印刷パスにより印刷を行う、印刷実行部と、

前記スキャンデータを前記第 1 データ格納部に格納する際に、前記印刷イメージデータを生成するのに適した形式に前記スキャンデータを振り分けた上で、前記第 1 データ格納部に格納する、データ振り分け部と、

を備えることを特徴とするマルチファンクションプリンタ。

【請求項 2】

前記プリンタが印刷媒体に印刷すべき解像度よりも、前記印刷ヘッドの解像度の方が、粗いたため、前記スキャンデータの 1 つのラインについて、複数回の印刷パスにより印刷を行う、ことを特徴とする請求項 1 に記載のマルチファンクションプリンタ。

【請求項 3】

前記データ振り分け部は、前記スキャンデータを、前記印刷パスに合わせて振り分ける、ことを特徴とする請求項 2 に記載のマルチファンクションプリンタ。

【請求項 4】

前記スキャンデータの 1 つのラインについての印刷パスは 2 回であり、前記データ振り分け部は、前記スキャンデータを偶数ビットと奇数ビットに振り分けた上で、前記第 1 データ格納部に格納する、ことを特徴とする請求項 2 に記載のマルチファンクションプリンタ。

【請求項 5】

前記データ振り分け部は、

前記スキナで読み取ったスキャンデータを一時的に格納する第 2 データ格納部と、

前記第 2 データ格納部から前記スキャンデータを読み出して、前記振り分けを行った上で、前記第 1 データ格納部に格納する、振り分け実行部と、

を備えることを特徴とする請求項 1 に記載のマルチファンクションプリンタ。

【請求項 6】

前記振り分け実行部は、前記スキャンデータを、偶数ビットと奇数ビットに分けた上で、前記スキャンデータの偶数ビットのデータを、前記スキャンデータの各ライン毎に、前記第 1 データ格納部の偶数ビット用データ格納部に格納し、前記スキャンデータの奇数ビットのデータを、前記スキャンデータの各ライン毎に、前記第 1 データ格納部の奇数ビット用データ格納部に格納し、

前記印刷実行部は、前記偶数ビット用データ格納部と前記奇数ビット用データ格納部から、それぞれ、1 ラインおきにスキャンデータを取り出すインターレス処理を行った上で、印刷を行う、

ことを特徴とする請求項 5 に記載のマルチファンクションプリンタ。

【請求項 7】

前記振り分け実行部は、所定データ長のラッチバッファを備えており、前記所定データ長の前記スキャンデータをラッチバッファにラッチし、このラッチバッファの偶数ビットから、前記偶数ビット用データ格納部に格納するスキャンデータを取得し、このラッチバッファの奇数ビットから、前記奇数ビット用データ格納部に格納するスキャンデータを取得する、ことを特徴とする請求項 6 に記載のマルチファンクションプリンタ。

【請求項 8】

前記振り分け実行部は、

所定データ長のスキャンデータのすべてのパターンについて、前記所定データ長のスキャンデータから偶数ビットを抽出して得られる偶数ビットデータが、格納されている、偶数用ルックアップテーブルと、

所定データ長のスキャンデータのすべてのパターンについて、前記所定データ長のスキャンデータから奇数ビットを抽出して得られる奇数ビットデータが、格納されている、奇数用ルックアップテーブルと、

を備えており、

前記第 2 データ格納部から、前記スキャンデータを前記所定データ長ずつ読み出し、この読み出したスキャンデータと、前記偶数用ルックアップテーブルとを比較して、前記偶数ビット用データ格納部に格納するスキャンデータを取得するとともに、前記読み出したスキャンデータと、前記奇数用ルックアップテーブルとを比較して、前記奇数ビット用データ格納部に格納するスキャンデータを取得する、

ことを特徴とする請求項 6 に記載のマルチファンクションプリンタ。

【請求項 9】

前記印刷実行部は、

前記偶数ビット用データ格納部及び前記奇数ビット用データ格納部の一方から K ラインおきに前記スキャンデータを読み出して、1 回の印刷パスを実行し、F ライン分だけ印刷用紙を紙送りした後、

前記偶数ビット用データ格納部及び前記奇数ビット用データ格納部の他方から K ラインおきに前記スキャンデータを読み出して、1 回の印刷パスを実行し、F ライン分だけ印刷用紙を紙送りする処理を、

前記奇数ビット用データ格納部と前記偶数ビット用データ格納部について交互に繰り返すとともに、

前記 K と前記 F は互いに素の関係にある、ことを特徴とする請求項 6 に記載のマルチファンクションプリンタ。

【請求項 10】

前記振り分け実行部は、ハードウェアで構成されていることを特徴とする請求項 6 に記載のマルチファンクションプリンタ。

【請求項 11】

前記印刷実行部が行う前記インターレス処理は、ソフトウェア処理として行われる、ことを特徴とする請求項 10 に記載のマルチファンクションプリンタ。

【請求項 1 2】

前記ソフトウェア処理は、前記スキャナと前記プリンタとで共通に 1 つだけ設けられている中央処理装置で行われる、ことを特徴とする請求項 1 1 に記載のマルチファンクションプリンタ。

【請求項 1 3】

前記第 1 データ格納部と前記第 2 データ格納部とは、別個のメモリとして設けられている、ことを特徴とする請求項 5 に記載のマルチファンクションプリンタ。

【請求項 1 4】

スキャナとプリンタとが一体化され、前記スキャナで読み取ったスキャンデータの同一ラインのデータを、X 回の印刷ヘッドの主走査方向への駆動により前記プリンタで印刷することが可能なマルチファンクションプリンタであって、

前記スキャンデータを、X 回の印刷ヘッドの主走査方向の駆動に分けて印刷する際のそれぞれの回のデータ形式に対応するように振り分けた上で、第 1 データ格納部に格納する、振り分け格納部と、

前記第 1 データ格納部から、振り分けられたスキャンデータを順番に読み出して、読み出す度にそのスキャンデータに基づいて印刷イメージデータを生成する、印刷イメージデータ生成部と、

前記印刷イメージデータ生成部が生成した前記印刷イメージデータに基づいて、印刷ヘッドを主走査方向に駆動して印刷を行う、印刷実行部と、

を備えることを特徴とするマルチファンクションプリンタ。

【請求項 1 5】

前記振り分け格納部は、ハードウェアで構成されていることを特徴とする請求項 1 4 に記載のマルチファンクションプリンタ。

【請求項 1 6】

前記印刷イメージ生成部はソフトウェア処理により実現され、このソフトウェア処理を行う中央処理装置を、前記スキャナと前記プリンタとで共通に 1 つだけ備えることを特徴とする請求項 1 5 に記載のマルチファンクションプリンタ。

【請求項 1 7】

前記印刷イメージデータ生成部は、前記第 1 データ格納部に格納された前記スキャンデータを、所定ライン毎に取り出すインタレース処理も行う、ことを特徴とする請求項 1 4 に記載のマルチファンクションプリンタ。

【請求項 1 8】

前記スキナで読み取った前記スキャンデータを一時的に格納しておく第 2 データ格納部をさらに備えるとともに、

前記振り分け格納部は、前記第 2 データ格納部から前記スキャンデータを読み出して、前記振り分けを行う、ことを特徴とする請求項 1 4 に記載のマルチファンクションプリンタ。

【請求項 1 9】

スキナとプリンタとが一体化されたマルチファンクションプリンタの制御方法であって、

前記スキナで読み取ったスキャンデータを、実際に印刷をする際の印刷イメージデータを生成するのに適した形式に振り分ける工程と、

振り分けた前記スキャンデータを、振り分けた状態で第 1 データ格納部に格納する工程と、

前記第 1 データ格納部に格納されている前記スキャンデータに基づいて、印刷処理に適したデータ形式である印刷イメージデータを生成する工程と、

前記印刷イメージデータに基づいて、前記プリンタの印刷ヘッドを駆動した印刷パスにより印刷を行う工程と、

を備えることを特徴とするマルチファンクションプリンタ。

【請求項 2 0】

スキナとプリンタとが一体化され、前記スキナで読み取ったスキャンデータの同一ラインのデータを、X 回の印刷ヘッドの主走査方向への駆動により前記プリンタで印刷することが可能なマルチファンクションプリンタの制御方法であって、

前記スキャンデータを、X 回の印刷ヘッドの主走査方向の駆動に分けて印刷する際のそれぞれの回のデータ形式に対応するように振り分ける工程と、

振り分けた前記スキャンデータを、第 1 データ格納部に格納する工程と、

前記第 1 データ格納部から、振り分けられたスキャンデータを順番に読み出して、読み出す度にそのスキャンデータに基づいて印刷イメージデータを生成する工程と、

生成された前記印刷イメージデータに基づいて、印刷ヘッドを主走査方向に駆動して印刷を行う工程と、

を備えることを特徴とするマルチファンクションプリンタの制御方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、マルチファンクションプリンタ、及び、その制御方法に関し、特に、コピー印刷における印刷時間の短縮化を図ったマルチファンクションプリンタ、及び、その制御方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

スキャナとプリンタとが一体化されて、1つの筐体に格納されたマルチファンクションプリンタが普及してきている。このようなマルチファンクションプリンタにおいては、1台で、スキャナとしての役割と、プリンタとしての役割と、コピー機としての役割とを、果たすことができる。この場合、プリンタ部分には、いわゆるページプリンタが用いられている。しかし、プリンタとして、いわゆるカラーインクジェットプリンタ等のシリアルプリンタを用いた方が、装置の小型化や低価格化を図ることができる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、コピー機としてこのマルチファンクションプリンタを使用する際には、スキャナでスキャンしたスキャンデータを、一時的に格納しておき、この格納したスキャンデータに基づいて、印刷イメージデータを生成している。そして、この印刷イメージデータをプリンタエンジンに転送し、印刷用紙に対する印刷を行っている。

【0004】

しかし、プリンタとしてインクジェットプリンタ等のシリアルプリンタを用いる場合、印刷ヘッドを搭載したキャリッジの動作と紙送りの組み合わせにより、スキャナでスキャンしたスキャンデータと、印刷イメージデータとの間のデータ配列が異なる場合がある。その代表的な例がインターレース処理である。

【 0 0 0 5 】

図 1 2 は、このインターレース処理の概念を説明する図である。この図 1 2 の例では、このインクジェットプリンタの印刷ヘッドは、4 8 個のインク吐出ノズルを備えており、したがって 1 回の印刷ヘッドの走査で 4 8 ライン分の印刷ができる。また、この例においては、2 回の印刷ヘッドの走査で、1 ラスター分の印刷ができる。すなわち、1 回目の印刷ヘッドの走査で、# 1、# 3、…、# 9 5 からなる奇数ラインの印刷が行われ、2 回目の印刷ヘッドの走査で、# 2、# 4、…、# 9 6 からなる偶数ラインの印刷が行われる。

【 0 0 0 6 】

なお、この図 1 2 の例では、1 回目の印刷ヘッドの走査が終了した後に、1 ライン分だけ紙送りをして、2 回目の印刷ヘッドの走査を行う例を示したが、1 回目の印刷ヘッドの走査が終了した後に、2 4 ライン分（1 / 2 ラスター分）だけ紙送りして、2 回目の印刷ヘッドの走査を行う場合もある。

【 0 0 0 7 】

さらに、スキャンデータと印刷イメージデータとで異なる配列になる代表的な例として、間引き印刷がある。この間引き印刷では、1 ライン分のスキャンデータを、一定間隔に間引いて、高解像度印刷を行う。例えば、1 ライン分のスキャンデータを 2 回の印刷ヘッドの移動で印刷を行う。

【 0 0 0 8 】

図 1 3 は、2 回の印刷ヘッドの移動で 1 ライン分のスキャンデータを印刷する処理概念を説明する図である。この図 1 3 においては、# 1 のラインのみを示しているが、これ以外の # 2 ~ # 9 6 のラインについても同様である。

【 0 0 0 9 】

まず、1 回目の印刷ヘッドの主走査で、スキャンデータの偶数ドットについて印刷を行う。続いて 2 回目の印刷ヘッドの主走査で、スキャンデータの奇数ドッ

トについて印刷を行う。この2回目の印刷ヘッドの主走査による印刷では、1回目の印刷ヘッドの主走査で印刷した偶数ドットの間、奇数ドットが位置するように、印刷を行う。

【0010】

しかしながら、スキャンデータに基づいて印刷イメージデータを生成する処理には時間がかかり、印刷ヘッドを搭載したキャリッジ移動をする度にキャリッジが停止してしまうという問題があった。例えば、スキャンデータを偶数ドットと奇数ドットに振り分ける処理を、ソフトウェアを用いて行くと、その処理に相当の時間がかかってしまい、印刷ヘッドを搭載したキャリッジ移動をする度にキャリッジが停止してしまうという問題があった。つまり、1印刷パスごとにキャリッジ移動が停止してしまい、キャリッジを連続的に左右主走査方向に動作させることができないという問題があった。このため、スキャナで読み取ったスキャンデータを印刷しようとする際のパフォーマンスが低下してしまっていた。この問題は、CPUの処理能力が十分でない場合に、特に顕著な問題として発生していた。

【0011】

そこで本発明は、前記課題に鑑みてなされたものであり、スキャナで読み取ったスキャンデータを、異なるデータ配列の印刷イメージデータを用いて印刷を行うマルチファンクションプリンタにおいて、その印刷速度の高速化を図ることを目的とする。

【0012】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するため、本発明に係るマルチファンクションプリンタは、スキャナとプリンタとが一体化されたマルチファンクションプリンタであって、前記スキャナで読み取ったスキャンデータを格納するための、第1データ格納部と、前記第1データ格納部に格納されているスキャンデータに基づいて、印刷処理に適したデータ形式である印刷イメージデータを生成して、この印刷イメージデータに基づいて、前記プリンタの印刷ヘッドを移動させながら、前記印刷ヘッドを駆動した印刷パスにより印刷を行う、印刷実行部と、前記スキャンデータを前

記第 1 データ格納部に格納する際に、前記印刷イメージデータを生成するのに適した形式に前記スキャンデータを振り分けた上で、前記第 1 データ格納部に格納する、データ振り分け部と、を備えることを特徴とする。

【 0 0 1 3 】

この場合、前記プリンタが印刷媒体に印刷すべき解像度よりも、前記印刷ヘッドの解像度の方が、粗いため、前記スキャンデータの 1 つのラインについて、複数回の印刷パスにより印刷を行うようにしてもよい。

【 0 0 1 4 】

また、前記データ振り分け部は、前記スキャンデータを、前記印刷パスに合わせて振り分けるようにしてもよい。

【 0 0 1 5 】

さらに、前記スキャンデータの 1 つのラインについての印刷パスは 2 回であり、前記データ振り分け部は、前記スキャンデータを偶数ビットと奇数ビットに振り分けた上で、前記第 1 データ格納部に格納するようにしてもよい。

【 0 0 1 6 】

一方、前記データ振り分け部は、前記スキャナで読み取ったスキャンデータを一時的に格納する第 2 データ格納部と、前記第 2 データ格納部から前記スキャンデータを読み出して、前記振り分けを行った上で、前記第 1 データ格納部に格納する、振り分け実行部と、を備えるようにしてもよい。

【 0 0 1 7 】

また、前記振り分け実行部は、前記スキャンデータを、偶数ビットと奇数ビットに分けた上で、前記スキャンデータの偶数ビットのデータを、前記スキャンデータの各ライン毎に、前記第 1 データ格納部の偶数ビット用データ格納部に格納し、前記スキャンデータの奇数ビットのデータを、前記スキャンデータの各ライン毎に、前記第 1 データ格納部の奇数ビット用データ格納部に格納し、前記印刷実行部は、前記偶数ビット用データ格納部と前記奇数ビット用データ格納部から、それぞれ、1 ラインおきにスキャンデータを取り出すインターレス処理を行った上で、印刷を行うようにしてもよい。

【 0 0 1 8 】

さらに、前記振り分け実行部は、所定データ長のラッチバッファを備えており、前記所定データ長の前記スキャンデータをラッチバッファにラッチし、このラッチバッファの偶数ビットから、前記偶数ビット用データ格納部に格納するスキャンデータを取得し、このラッチバッファの奇数ビットから、前記奇数ビット用データ格納部に格納するスキャンデータを取得するようにしてもよい。

【 0 0 1 9 】

一方、前記振り分け実行部は、所定データ長のスキャンデータのすべてのパターンについて、前記所定データ長のスキャンデータから偶数ビットを抽出して得られる偶数ビットデータが、格納されている、偶数用ルックアップテーブルと、所定データ長のスキャンデータのすべてのパターンについて、前記所定データ長のスキャンデータから奇数ビットを抽出して得られる奇数ビットデータが、格納されている、奇数用ルックアップテーブルと、を備えており、前記第2データ格納部から、前記スキャンデータを前記所定データ長ずつ読み出し、この読み出したスキャンデータと、前記偶数用ルックアップテーブルとを比較して、前記偶数ビット用データ格納部に格納するスキャンデータを取得するとともに、前記読み出したスキャンデータと、前記奇数用ルックアップテーブルとを比較して、前記奇数ビット用データ格納部に格納するスキャンデータを取得するようにしてもよい。

【 0 0 2 0 】

一方、前記印刷実行部は、前記偶数ビット用データ格納部及び前記奇数ビット用データ格納部の一方からKラインおきに前記スキャンデータを読み出して、1回の印刷パスを実行し、Fライン分だけ印刷用紙を紙送りした後、前記偶数ビット用データ格納部及び前記奇数ビット用データ格納部の他方からKラインおきに前記スキャンデータを読み出して、1回の印刷パスを実行し、Fライン分だけ印刷用紙を紙送りする処理を、前記奇数ビット用データ格納部と前記偶数ビット用データ格納部について交互に繰り返すとともに、前記Kと前記Fは互いに素の関係にあるようにしてもよい。

【 0 0 2 1 】

さらに、前記振り分け実行部は、ハードウェアで構成されているようにしても

よい。この場合、前記印刷実行部が行う前記インターレス処理は、ソフトウェア処理として行われるようにしてもよい。また、前記ソフトウェア処理は、前記スキャナと前記プリンタとで共通に1つだけ設けられている中央処理装置で行われるようにしてもよい。

【0022】

一方、前記第1データ格納部と前記第2データ格納部とは、別個のメモリとして設けられているようにしてもよい。

【0023】

本発明に係るマルチファンクションプリンタは、スキャナとプリンタとが一体化され、前記スキャナで読み取ったスキャンデータの同一ラインのデータを、X回の印刷ヘッドの主走査方向への駆動により前記プリンタで印刷することが可能なマルチファンクションプリンタであって、前記スキャンデータを、X回の印刷ヘッドの主走査方向の駆動に分けて印刷する際のそれぞれの回のデータ形式に対応するように振り分けた上で、第1データ格納部に格納する、振り分け格納部と、前記第1データ格納部から、振り分けられたスキャンデータを順番に読み出して、読み出す度にそのスキャンデータに基づいて印刷イメージデータを生成する、印刷イメージデータ生成部と、前記印刷イメージデータ生成部が生成した前記印刷イメージデータに基づいて、印刷ヘッドを主走査方向に駆動して印刷を行う、印刷実行部と、を備えることを特徴とする。

【0024】

この場合、前記振り分け格納部は、ハードウェアで構成されているようにしてもよい。

【0025】

また、前記印刷イメージ生成部はソフトウェア処理により実現され、このソフトウェア処理を行う中央処理装置を、前記スキャナと前記プリンタとで共通に1つだけ備えるようにしてもよい。

【0026】

また、前記印刷イメージデータ生成部は、前記第1データ格納部に格納された前記スキャンデータを、所定ライン毎に取り出すインターレス処理も行うように

してもよい。

【 0 0 2 7 】

一方、前記スキナで読み取った前記スキャンデータを一時的に格納しておく第2データ格納部をさらに備えるとともに、前記振り分け格納部は、前記第2データ格納部から前記スキャンデータを読み出して、前記振り分けを行うようにしてもよい。

【 0 0 2 8 】

本発明に係るマルチファンクションプリンタの制御方法は、スキナとプリンタとが一体化されたマルチファンクションプリンタの制御方法であって、前記スキナで読み取ったスキャンデータを、実際に印刷をする際の印刷イメージデータを生成するのに適した形式に振り分ける工程と、振り分けた前記スキャンデータを、振り分けた状態で第1データ格納部に格納する工程と、前記第1データ格納部に格納されている前記スキャンデータに基づいて、印刷処理に適したデータ形式である印刷イメージデータを生成する工程と、前記印刷イメージデータに基づいて、前記プリンタの印刷ヘッドを駆動した印刷パスにより印刷を行う工程と、を備えることを特徴とする。

【 0 0 2 9 】

本発明に係るマルチファンクションプリンタの制御方法は、スキナとプリンタとが一体化され、前記スキナで読み取ったスキャンデータの同一ラインのデータを、X回の印刷ヘッドの主走査方向への駆動により前記プリンタで印刷することが可能なマルチファンクションプリンタの制御方法であって、前記スキャンデータを、X回の印刷ヘッドの主走査方向の駆動に分けて印刷する際のそれぞれの回のデータ形式に対応するように振り分ける工程と、振り分けた前記スキャンデータを、第1データ格納部に格納する工程と、前記第1データ格納部から、振り分けられたスキャンデータを順番に読み出して、読み出す度にそのスキャンデータに基づいて印刷イメージデータを生成する工程と、生成された前記印刷イメージデータに基づいて、印刷ヘッドを主走査方向に駆動して印刷を行う工程と、を備えることを特徴とする。

【 0 0 3 0 】

【発明の実施の形態】

〔第 1 実施形態〕

本発明の第 1 実施形態は、スキャンデータを A S I C を用いて偶数ビットと奇数ビットに振り分ける処理を行い、これら偶数ビットのスキャンデータと奇数ビットのスキャンデータとを、予めインターレースメモリ内に区分して格納しておくことにより、ソフトウェア処理として行われるインターレース処理の際に振り分け処理をしなくとも印刷イメージデータが生成できるようにしたものである。そして、これにより、可能な限り短い時間でスキナで読み取ったスキャンデータを印刷しようとするものである。より詳しくを、以下に説明する。

【 0 0 3 1 】

まず、図 1 に基づいて、本実施形態に係るマルチファンクションプリンタ 5 の内部構成を説明する。この図 1 は、スキナとプリンタとが一体化されたマルチファンクションプリンタ 5 の内部構成を示すブロック図である。

【 0 0 3 2 】

図 1 に示すように、マルチファンクションプリンタ 5 は、スキナ機構部 1 0 と、スキナ A S I C (Application Specific IC) 1 2 と、スキナ用 R A M (Random Access Memory) 1 4 と、C P U (Central Processing Unit: 中央処理装置) 1 6 と、プリンタ用 R A M 1 8 と、プリンタ A S I C 2 0 と、プリンタエンジン 2 2 とを、備えている。

【 0 0 3 3 】

スキナ A S I C 1 2 と、スキナ用 R A M 1 4 と、C P U 1 6 と、プリンタ用 R A M 1 8 と、プリンタ A S I C 2 0 とは、内部バスを介して相互に接続されている。スキナ用 R A M 1 4 内には、スキナ機構部 1 0 で読み取ったスキャンデータを一時的に格納するバッファ 1 4 a が生成されており、プリンタ用 R A M 1 8 内には、スキャンデータをインターレース処理するまで格納しておくインターレースメモリ 1 8 a が生成されている。本実施形態においては、スキナ用 R A M 1 4 とプリンタ用 R A M 1 8 とを別個に設けているが、これらをまとめて 1 つの R A M としてもよい。

【 0 0 3 4 】

また、本実施形態においては、インターレースメモリ 1 8 a は、偶数用インターレースメモリ 2 4 と、奇数用インターレースメモリ 2 6 とに区分されている。偶数用インターレースメモリ 2 4 には、スキャンデータのうち偶数ビットが格納され、奇数用インターレースメモリ 2 6 には、スキャンデータのうち奇数ビットが格納される。スキャンデータを偶数ビットと奇数ビットに振り分ける処理は、スキャナ A S I C 1 2 で行われる。

【 0 0 3 5 】

スキャナ機構部 1 0 は、光学的に原稿を読み取るラインイメージセンサを有している。このラインイメージセンサは、キャリッジに搭載されており、キャリッジを原稿の一端側から他端側まで移動させることにより、原稿全体を読み取ることが可能である。この読み取り動作は、スキャナ A S I C 1 2 が制御しており、読み取ったスキャンデータは、スキャナ用 R A M 1 4 内に生成されたバッファ 1 4 a に格納される。高解像度印刷の場合、所定量のスキャンデータがバッファ 1 4 a に蓄積された時点で、そのスキャンデータは、偶数ビットと奇数ビットに振り分けられた上で、それぞれ、プリンタ用 R A M 1 8 内に生成された偶数用インターレースメモリ 2 4 と奇数用インターレースメモリ 2 6 とに転送される。

【 0 0 3 6 】

偶数用インターレースメモリ 2 4 と奇数用インターレースメモリ 2 6 に格納されたスキャンデータは、C P U 1 6 によりインターレース処理された上で、印刷イメージデータとして、プリンタ A S I C 2 0 に送信される。本実施形態においては、まず、偶数用インターレースメモリ 2 4 に格納されているスキャンデータに対してインターレース処理を施して印刷イメージデータを生成し、1 印刷パス分の印刷イメージデータとして、プリンタ A S I C 2 0 に送信する。例えば、偶数用インターレースメモリ 2 4 の奇数ラインに格納されているスキャンデータに基づいて、1 印刷パス分の印刷イメージを生成し、プリンタ A S I C 2 0 に送信する。プリンタ A S I C 2 0 は、この 1 印刷パス分の印刷イメージデータに基づいてプリンタエンジン 2 2 の制御を行い、印刷を行う。具体的には、印刷ヘッドを主走査方向に移動させながら、印刷ヘッドにある複数のインク吐出ノズルからインクを吐出して、印刷用紙に偶数ドットの印刷を行う。

【0037】

続いて、CPU16は、奇数用インターレースメモリ26に格納されているスキャンデータに対してインターレース処理を施して印刷イメージデータを生成し、先ほど印刷した印刷パスと同じラインにある印刷パスの印刷イメージデータとして、プリンタASIC20に送信する。例えば、奇数用インターレースメモリ26の奇数ラインに格納されているスキャンデータに基づいて、1印刷パス分の印刷イメージを生成し、プリンタASIC20に送信する。プリンタASIC20は、印刷イメージデータに基づいてプリンタエンジン22の制御を行い、印刷を行う。この際、先ほど印刷用紙に印刷した偶数ドットの間、今回印刷する奇数ドットが位置するように印刷をする。

【0038】

次に、本実施形態に係るマルチファンクションプリンタ5は、1ライン分だけ、印刷用紙を副走査方向（主走査方向と交差する方向）に紙送りをする。そして、同様に、偶数用インターレースメモリ24の偶数ラインに格納されているスキャンデータを印刷し、奇数用インターレースメモリ26の偶数ラインに格納されているスキャンデータを印刷する。このように、印刷ヘッドを主走査方向に移動した印刷を4回行うことにより、1ラスタース分の印刷を行うことができる。

【0039】

本実施形態では、このように1ライン上にあるスキャンデータを偶数ビットと奇数ビットに分けた上で、偶数ビットの印刷と奇数ビットの印刷を別個に行うとともに、奇数ラインと偶数ラインの印刷も個別に行うことにより、高解像度印刷を実現している。

【0040】

以上のことからわかるように、本実施形態に係るマルチファンクションプリンタ5は、ページ単位のメモリバッファを備えるのではなく、スキャンしたスキャンデータを、少なくとも1バンド単位（印刷ヘッドの高さ分）のプリンタ用RAM18に格納して、印刷を行う。

【0041】

マルチファンクションプリンタ5の概略的处理内容は、以上の通りであるが、

次に、マルチファンクションプリンタ 5 が備える各種のタスクについて説明する。

【 0 0 4 2 】

図 2 は、CPU 1 6 で処理される各種のタスクを示す図である。本実施形態においては、マルチファンクションプリンタ 5 に、中央処理装置としては 1 つの CPU 1 6 のみが設けられている。このため、この CPU 1 6 で、スキャナに関するタスクの処理とプリンタに関するタスクの処理との双方が行われることになる。また、本実施形態のマルチファンクションプリンタ 5 は、リアルタイムマルチタスク OS（オペレーティングシステム）3 0 を採用している。このため、各種のタスクには、このリアルタイムマルチタスク OS 3 0 上で、CPU 1 6 が所定の優先順位で割り当てられることになる。

【 0 0 4 3 】

図 2 に示すように、本実施形態におけるマルチファンクションプリンタ 5 は、印刷実行処理タスク 4 0 と、スキャナ処理タスク 4 1 と、インターレース処理タスク 4 2 と、アイドルタスク 4 3 とを備えている。また、これ以外にも様々なタスクを、その他のタスク 4 4 として備えている。

【 0 0 4 4 】

各タスクの詳細な処理内容は後述するが、スキャナ処理タスク 4 1 は、上述したスキャン処理を行うためのタスクである。インターレース処理タスク 4 2 は、偶数用インターレースメモリ 2 4 及び奇数用インターレースメモリ 2 6 からスキャンデータを読み出して、インターレース処理を行うタスクである。印刷実行処理タスク 4 0 は、インターレース処理された印刷イメージデータに基づいて、印刷を行うタスクである。

【 0 0 4 5 】

図 3 は、本実施形態に係るスキャナ処理タスク 4 1 が行うスキャナ処理の内容を説明するフローチャートを示す図である。この図 3 に示すスキャナ処理は、インターレース処理タスク 4 2 から送信された転送要求により、起動される処理である。つまり、転送要求がトリガーとなって、スキャナ処理タスク 4 1 は起動する。この転送要求に際しては、スキャンデータを要求するライン数も指定されて

いる。例えば、10ライン分のスキャンデータが必要である旨の指定がなされている。

【0046】

図3に示すように、スキャナ処理タスク41は、スキャナ機構部10のキャリッジ移動用のモータを起動する（ステップS10）。そして、スキャナASIC12にスキャンの開始を指令する（ステップS11）。スキャン動作の具体的な制御はスキャナASIC12が行う。このため、スキャナ処理タスク41においては、スキャンの開始をスキャナASIC12に指示した後に、CPU16を解放する。

【0047】

スキャナASIC12は、指定されたライン分のスキャン動作を行い、その読み取ったスキャンデータを、バッファ14aに格納する。例えば、10ライン分のスキャン指示を受信していた場合には、10ライン分のスキャンデータをバッファ14aに格納する。

【0048】

続いて、スキャナASIC12は、バッファ14aに格納されたスキャンデータを、偶数ビットと奇数ビットに区分して、偶数ビットのスキャンデータを偶数用インターレースメモリ24に転送し、奇数ビットのスキャンデータを奇数用インターレースメモリ26に転送する。そして、バッファ14aに格納されているすべてのスキャンデータの転送を終えた時点で、スキャナASIC12は、スキャン終了の割り込みを発生する。

【0049】

このスキャン終了の割り込みに基づいて、スキャナ処理タスク41は、再起動される。そして、図3に示すように、スキャナ処理タスク41は、転送が完了したことを示す転送完了通知を、インターレース処理タスク42に送信する（ステップS12）。これにより、スキャナ処理が終了する。

【0050】

次に、図4及び図5に基づいて、スキャナASIC12で行われる上記スキャンデータの振り分け処理について詳しく説明する。この図4は、スキャナASI

C 1 2で行われる振り分け処理の内容を説明するフローチャートである。図 5 は、その振り分け処理を実現するために、スキャナ A S I C 1 2 内に設けられているハードウェア構成の一例を示す図である。

【 0 0 5 1 】

これら図 4 及び図 5 に示すように、バッファ 1 4 a に所定量のスキャンデータを格納した時点で、スキャナ A S I C 1 2 は、バッファ 1 4 a からスキャンデータをラッチし、ラッチバッファ 5 0 に格納する（ステップ S 2 0）。本実施形態においては、1 6 ビット単位（ワード単位）でこのラッチを行う。但し、ラッチするデータ長は、8 ビット単位（バイト単位）や 3 2 ビット単位（ロングワード単位）等であってもよい。

【 0 0 5 2 】

次に、ビット $2n$ ($n=0\sim7$) のスキャンデータを、偶数用インターレースメモリ 2 4 に転送し、ビット $2n+1$ ($n=0\sim7$) のスキャンデータを、奇数用インターレースメモリ 2 6 に転送する（ステップ S 2 1）。これにより、ビット 0、2、4、6、8、1 0、1 2、1 4 のスキャンデータが、偶数用インターレースメモリ 2 4 に格納され、ビット 1、3、5、7、9、1 1、1 3、1 5 のスキャンデータが、奇数用インターレースメモリ 2 6 に格納される。

【 0 0 5 3 】

次に、偶数用インターレースメモリ 2 4 の格納先アドレスと、奇数用インターレースメモリ 2 6 の格納先アドレスとを、それぞれ、更新する（ステップ S 2 2）。格納先アドレスを更新することにより、次のスキャンデータを格納すべきアドレスが定まることになる。

【 0 0 5 4 】

次に、バッファ 1 4 a に格納されているすべてのスキャンデータを、偶数用インターレースメモリ 2 4 及び奇数用インターレースメモリ 2 6 に転送したかどうかを判断する（ステップ S 2 3）。すべてのスキャンデータを転送し終えた場合（ステップ S 2 3 : Y e s）には、この振り分け処理が終了する。上述したように、この際スキャナ A S I C 1 2 は、スキャン終了の割り込みを発生する。一方、すべてのスキャンデータを転送し終わっていない場合（ステップ S 2 3 : N o）

には、上述したステップ S 2 0 からの処理を繰り返す。

【 0 0 5 5 】

次に、図 6 及び図 7 に基づいて、インターレース処理タスク 4 2 の処理内容を説明する。この図 6 は、本実施形態に係るインターレース処理タスク 4 2 が行うインターレース展開処理の内容を説明するフローチャートを示す図である。この図 6 に示すインターレース展開処理は、スキャナ処理タスク 4 1 から送信された転送完了通知により、起動される処理である。つまり、転送完了通知がトリガーとなって、インターレース処理タスク 4 2 は起動する。図 7 は、偶数用インターレースメモリ 2 4 及び奇数用インターレースメモリ 2 6 に格納されているスキャンデータに基づいて、印刷イメージデータを生成する処理過程を説明する図である。

【 0 0 5 6 】

図 6 に示すように、本実施形態に係るインターレース処理タスク 4 2 は、まず、次の印刷パスで奇数ドットを印刷するのか、それとも偶数ドットを印刷するのかを、決定する（ステップ S 3 0）。続いて、インターレース処理タスク 4 2 は、次の印刷パスで奇数ドットを印刷すると決めたかどうかを判断する（ステップ S 3 1）。奇数ドットを印刷すると決めた場合（ステップ S 3 1 : Y e s）には、奇数用インターレースメモリ 2 6 に引き抜き用ポインタをセットする（ステップ S 3 2）。

【 0 0 5 7 】

例えば、図 7 において、奇数用インターレースメモリ 2 6 に格納されている奇数ライン # 1、# 3、…、# 9 5 の印刷をする場合には、引き抜き用ポインタを奇数用インターレースメモリ 2 6 の奇数ライン # 1、# 3、…、# 9 5 にセットする。つまり、本実施形態に係るマルチファンクションプリンタ 5 の印刷ヘッドは、4 8 本のインク吐出ノズルを有している。

【 0 0 5 8 】

これに対して、図 6 に示すように、ステップ S 3 1 で偶数ドットを印刷すると判断した場合（ステップ S 3 1 : N o）には、偶数用インターレースメモリ 2 4 に、引き抜き用ポインタをセットする（ステップ S 3 3）。

【0059】

例えば、図7において、偶数用インターレースメモリ24に格納されている奇数ライン#1、#3、…、#95の印刷をする場合には、引き抜き用ポインタを偶数用インターレースメモリ24の奇数ライン#1、#3、…、#95にセットする。

【0060】

次に、図6に示すように、インターレース処理タスク42は、引き抜き用ポインタからスキャンデータを取得して、印刷イメージデータを生成する（ステップS34）。本実施形態においては、図7に示すように、PD1～PD48からなる48ラインにより、1回の印刷パス分の印刷イメージデータを生成する。PD1～PD48は、それぞれ印刷ヘッドのインク吐出ノズル1～48に対応している。

【0061】

次に、図6に示すように、インターレース処理タスク42は、生成した印刷イメージデータを印刷実行処理タスク40に送信する（ステップS35）。これにより、印刷ヘッドを主走査方向に1回移動した印刷が行われる。続いて、ページ管理カウンタを更新する（ステップS36）。このページ管理カウンタは、1ページ分の印刷イメージデータを生成したかどうかを判断するためのカウンタである。

【0062】

続いて、インターレース処理タスク42は、このページ管理カウンタに基づいて、1ページ分のインターレース処理が終了したかどうかを判断する（ステップS37）。1ページ分のインターレース処理が終了した場合（ステップS37：Yes）には、このインタレース展開処理は終了する。

【0063】

一方、1ページ分のインターレース処理が終了していない場合（ステップS37：No）には、インターレースメモリ18aに、次のインターレース処理を行うのに必要なスキャンデータが格納されているかどうかを判断する（ステップS38）。

【 0 0 6 4 】

次のインタレース処理を行うのに必要なスキャンデータが、インターレースメモリ 1 8 a に格納されていると判断した場合（ステップ S 3 8 : Y e s）には、上述したステップ S 3 0 からの処理を繰り返す。

【 0 0 6 5 】

一方、次のインタレース処理を行うのに必要なスキャンデータが、インターレースメモリ 1 8 a に格納されていないと判断した場合（ステップ S 3 8 : N o）には、スキャナ処理タスク 4 1 へ、次の転送要求を送信する（ステップ S 3 9）。そして、このインタレース処理タスク 4 2 をひとまず終了する。この場合、上述したスキャナ処理タスク 4 1 から転送完了通知が発信されることにより、このインタレース処理タスク 4 2 は再起動される。

【 0 0 6 6 】

これら図 6 及び図 7 から分かるように、本実施形態においては、1 ラスター分のスキャンデータの印刷は、印刷ヘッドを 4 回主走査方向に移動することにより、行われる。例えば、1 回目の印刷ヘッドの移動で、偶数用インターレースメモリ 2 4 の奇数ラインを印刷し、2 回目の印刷ヘッドの移動で奇数用インターレースメモリ 2 6 の奇数ラインを印刷し、3 回目の印刷ヘッドの移動で偶数用インターレースメモリ 2 4 の偶数ラインを印刷し、4 回目の印刷ヘッドの移動で奇数用インターレースメモリの偶数ラインを印刷する。

【 0 0 6 7 】

次に、図 8 に基づいて、印刷実行処理タスク 4 0 の処理内容を説明する。この図 8 は、本実施形態に係る印刷実行処理タスク 4 0 が行う印刷実行処理の内容を説明するフローチャートを示す図である。この図 8 に示す印刷実行処理は、インターレース処理タスク 4 2 から印刷イメージデータとともに送信された印刷要求により、起動される処理である。つまり、印刷要求がトリガーとなって、印刷実行処理タスク 4 0 は起動する。

【 0 0 6 8 】

図 8 に示すように、本実施形態に係る印刷実行処理タスク 4 0 は、印刷要求とともに受信した印刷イメージデータを、プリンタ A S I C 2 0 に転送する（ステ

ップ S 4 0)。本実施形態においては、プリンタエンジン 2 2 で印刷イメージデータに基づいて印刷用紙に実際に印刷を行う際の制御は、プリンタ A S I C 2 0 が行っている。したがって、印刷実行処理タスク 4 0 は、印刷イメージデータをプリンタ A S I C 2 0 に転送することにより、終了する。プリンタ A S I C 2 0 では、この印刷イメージデータに基づいて、プリンタエンジン 2 2 を制御し、印刷ヘッドを主走査方向に 1 回移動することにより、1 印刷パス分の印刷を行う。

【 0 0 6 9 】

以上のように、本実施形態に係るマルチファンクションプリンタ 5 によれば、スキャンデータの偶数ビットと奇数ビットとを、それぞれ、偶数用インターレースメモリ 2 4 と奇数用インターレースメモリ 2 6 とに振り分けて格納したので、インタレース処理タスク 4 2 ではスキャンデータを偶数ビットと奇数ビットに振り分ける必要がなくなる。このため、高解像度印刷であっても、プリンタエンジン 2 2 の最大スループットで印刷を行うことができる。つまり、プリンタの印刷ヘッドを搭載したキャリッジの主走査を停止させることなく、スキャナ機構部 1 0 で読み取ったスキャンデータを印刷することができるようになる。

【 0 0 7 0 】

しかも、本実施形態においては、スキャンデータを偶数ビットと奇数ビットとに振り分ける処理を、スキャナ A S I C 1 2、つまりハードウェアで行うこととしたので、CPU 1 6 を 1 つしか備えていないマルチファンクションプリンタ 5 であっても、高速に振り分け処理をすることができる。特に、CPU 1 6 の処理速度が十分でない場合であっても、従来より短い印刷時間を実現することができる。

【 0 0 7 1 】

〔第 2 実施形態〕

本発明の第 2 実施形態は、上述した第 1 実施形態におけるスキャナ A S I C 1 2 で行われる振り分け処理に、変形を加えたものである。

【 0 0 7 2 】

図 9 は、本実施形態に係る振り分け処理の内容を説明するフローチャートである。図 1 0 及び図 1 1 は、図 9 の振り分け処理で用いられる偶数用ルックアップ

テーブル T B 0 と奇数用ルックアップテーブル T B 1 とをそれぞれ示す図である。

【 0 0 7 3 】

まず、図 1 0 及び図 1 1 に基づいて、偶数用ルックアップテーブル T B 0 と奇数用ルックアップテーブル T B 1 の構成について説明する。図 1 0 に示すように、偶数用ルックアップテーブル T B 0 には、8 ビットのスキャンデータのすべてのパターンに対応する 4 ビットの偶数ビットデータが格納されている。つまり、8 ビットのスキャンデータにより発生し得る 2 5 6 パターンすべてについて、偶数ビットを抽出して得られる 4 ビットデータを、予め格納しておく。そして、8 ビットのスキャンデータを取得した際には、この偶数用ルックアップテーブル T B 0 を検索することにより、偶数ビットデータが得られるようにしておく。このことは、図 1 1 に示す奇数用ルックアップテーブル T B 1 についても同様である。本実施形態においては、これら偶数用ルックアップテーブル T B 0 と奇数用ルックアップテーブル T B 1 は、スキャナ A S I C 1 2 内に形成されている。

【 0 0 7 4 】

次に図 9 に基づいて、スキャナ A S I C 1 2 で行われる振り分け処理について説明する。この図 9 に示すように、バッファ 1 4 a に所定量のスキャンデータを格納した時点で、スキャナ A S I C 1 2 は、バッファ 1 4 a からスキャンデータをラッチし、ラッチバッファ 5 0 に格納する（ステップ S 5 0）。本実施形態においては、8 ビット単位（バイト単位）でこのラッチを行う。但し、ラッチするデータ長は、1 6 ビット単位（ワード単位）や 3 2 ビット単位（ロングワード単位）等であってもよい。この場合、ラッチするデータ長に合わせて、偶数用ルックアップテーブル T B 0 と奇数用ルックアップテーブル T B 1 も、1 6 ビットや 3 2 ビット用に形成しておく必要がある。

【 0 0 7 5 】

次に、偶数用ルックアップテーブル T B 0 を参照して、ステップ S 5 0 でラッチしたスキャンデータに対応する偶数ビットデータを取得し、この偶数ビットデータを偶数用インターレースメモリ 2 4 に転送する（ステップ S 5 1）。すなわち、図 1 0 に示す偶数用ルックアップテーブル T B 0 を参照し、8 ビットのスキ

ランデータから、偶数ビットを抽出した偶数ビットデータを取得する。例えば、ステップ S 5 0 でスキャンデータとして、「0 0 1 1 0 1 0 0」をラッチした場合、偶数用ルックアップテーブル T B 0 に基づいて、偶数ビットデータとして「0 1 1 0」を取得する。そして、この偶数ビットデータを偶数用インターレースメモリ 2 4 に転送する。

【 0 0 7 6 】

同様に、図 9 に示すように、次に奇数用ルックアップテーブル T B 1 を参照して、ステップ S 5 0 でラッチしたスキャンデータに対応する奇数ビットデータを取得し、この奇数ビットデータを奇数用インターレースメモリ 2 6 に転送する（ステップ S 5 2）。すなわち、図 1 1 に示す奇数用ルックアップテーブル T B 1 を参照し、8 ビットのスキャンデータから、奇数ビットを抽出した奇数ビットデータを取得する。例えば、上記と同様にステップ S 5 0 でスキャンデータとして、「0 0 1 1 0 1 0 0」をラッチした場合、奇数用ルックアップテーブル T B 1 に基づいて、奇数ビットデータとして「0 1 0 0」を取得する。そして、この奇数ビットデータを奇数用インターレースメモリ 2 6 に転送する。

【 0 0 7 7 】

次に、偶数用インターレースメモリ 2 4 の格納先アドレスと、奇数用インターレースメモリ 2 6 の格納先アドレスとを、それぞれ、更新する（ステップ S 5 3）。格納先アドレスを更新することにより、次のスキャンデータを格納すべきアドレスが定まることになる。

【 0 0 7 8 】

次に、バッファ 1 4 a に格納されているすべてのスキャンデータを、偶数用インターレースメモリ 2 4 及び奇数用インターレースメモリ 2 6 に転送したかどうかを判断する（ステップ S 5 4）。すべてのスキャンデータを転送し終えた場合（ステップ S 5 4 : Y e s）には、この振り分け処理が終了する。一方、すべてのスキャンデータを転送し終えていない場合（ステップ S 5 4 : N o）には、上述したステップ S 2 0 からの処理を繰り返す。

【 0 0 7 9 】

以上のように、本実施形態に係るマルチファンクションプリンタ 5 によっても

、上述した第 1 実施形態と同様に、スキャンデータの偶数ビットと奇数ビットとを、それぞれ、偶数用インターレースメモリ 2 4 と奇数用インターレースメモリ 2 6 とに振り分けて格納したので、インターレース処理タスク 4 2 ではスキャンデータを偶数ビットと奇数ビットに振り分ける必要がなくなる。このため、高解像度印刷であっても、プリンタエンジン 2 2 の最大スループットで印刷を行うことができる。プリンタのキャリッジ移動を停止させることなく、スキャナ機構部 1 0 で読み取ったスキャンデータを印刷することができるようになる。つまり、プリンタの印刷ヘッドを搭載したキャリッジの主走査を停止させることなく、スキャナ機構部 1 0 で読み取ったスキャンデータを印刷することができるようになる。

【 0 0 8 0 】

また、本実施形態においても、スキャンデータを偶数ビットと奇数ビットとに振り分ける処理を、スキャナ A S I C 1 2、つまりハードウェアで行うこととしたので、CPU 1 6 を 1 つしか備えていないマルチファンクションプリンタ 5 であっても、高速に処理することができる。特に、CPU 1 6 の処理速度が十分でない場合であっても、従来より短い印刷時間を実現することができる。

【 0 0 8 1 】

〔第 3 実施形態〕

本発明の第 3 実施形態は、上述した第 1 及び第 2 実施形態において、インターレース処理の仕方に変形を加えたものである。

【 0 0 8 2 】

図 1 4 は、本実施形態における高精細印刷の手法を説明する図である。この図 1 4 に示すように、本実施形態においては、スキャナ機構部 1 0 で読み取った 1 ライン分のスキャンデータを、偶数ドットと奇数ドットに分けて印刷するとともに、インターレース処理タスク 4 2 では 3 ラインのインターレース処理を行う。さらに、印刷された印刷用紙において矩形状に隣接する 4 つのドットが、異なるインク吐出ノズルで印刷されるように、主走査方向に印刷ヘッドを 1 回移動した後、副走査方向に印刷用紙を 2 ライン分だけ紙送りするようにしたものである。

【 0 0 8 3 】

すなわち、この図 1 4 の例では、印刷ヘッドは、0 番から 3 番までの 4 つのインク吐出ノズルを有している。また、図 1 4 では、偶数ドットを丸印で表しており、奇数ドットを菱形印で表している。

【 0 0 8 4 】

1 回目の印刷ヘッドの主走査方向への移動により、# 2 のラインの偶数ドットを 3 番ノズルで印刷し、2 ライン分の紙送りをする。2 回目の印刷ヘッドの主走査方向の移動により、# 1 と # 4 のラインの奇数ドットを 2 番ノズルと 3 番ノズルで印刷し、2 ライン分の紙送りをする。3 回目の印刷ヘッドの主走査方向の移動により、# 3 と # 6 のラインの偶数ドットを 2 番ノズルと 3 番ノズルで印刷し、2 ライン分の紙送りをする。4 回目の印刷ヘッドの主走査方向の移動により、# 2 と # 5 と # 8 のラインの奇数ドットを 1 番ノズルと 2 番ノズルと 3 番ノズルで印刷し、2 ライン分の紙送りをする。5 回目の印刷ヘッドの主走査方向の移動により、# 1 と # 4 と # 7 と # 1 0 のラインの偶数ドットを 1 番～4 番のノズルで印刷をする。

【 0 0 8 5 】

以下、このように、3 ライン毎に、偶数ドットと奇数ドットとを交互に印刷する処理を繰り返して、スキャンデータの印刷を行っていく。但し、印刷用紙に正常に印刷できる有効印刷範囲は、図 1 4 に示すように、1 回目の印刷ヘッドの移動における 0 番ノズルの位置から 9 番目のラインより、副走査方向下側になる。

【 0 0 8 6 】

また、印刷を行うために抜き出すスキャンデータのラインの間隔を K (図 1 4 の例では 3) とし、紙送りのライン数を F (図 1 4 の例では 2) とすると、K と F は互いに素の関係になっている。この関係を維持することにより、図 1 4 に点線で示すように、矩形状に隣接する 4 つのドットが互いに異なるインク吐出ノズルで印刷されるようになる。

【 0 0 8 7 】

本実施形態に係るマルチファンクションプリンタ 5 のハードウェア構成は、図 1 と同様である。また、第 1 実施形態又は第 2 実施形態で説明したように、スキャナ A S I C 1 2 でスキャンデータが偶数ビットと奇数ビットに区分されて、そ

れぞれ、偶数用インターレースメモリ 2 4 と奇数用インターレースメモリ 2 6 に格納されるのも同様である。しかし、CPU 1 6 が実行するインターレース処理タスク 4 2 の内容が異なっている。

【 0 0 8 8 】

図 1 5 は本実施形態に係るインターレース処理タスク 4 2 の処理内容を説明するフローチャートである。この図 1 5 に示すように、本実施形態においては、まず、偶数用インターレースメモリ 2 4 と奇数用インターレースメモリ 2 6 との先頭部分に、印刷開始用のダミーライン T D L を形成する（ステップ S 2 9）。図 1 6 は、偶数用インターレースメモリ 2 4 の構成を示す図であり、図 1 7 は、奇数用インターレースメモリ 2 6 の構成を示す図である。但し、これら偶数用インターレースメモリ 2 4 及び奇数用インターレースメモリ 2 6 は、1 ページ分の容量をプリンタ用 R A M 1 8 に一括で確保するのではなく、所定ライン分の容量をプリンタ用 R A M 1 8 に確保した上で、印刷の終了したラインのスキャンデータは破棄することにより、順次使い回しがなされる。したがって、図 1 6 及び図 1 7 は、あくまでも理解を助けるための概念説明図である。

【 0 0 8 9 】

この図 1 6 に示すように、本実施形態に係るインターレース処理タスク 4 2 においては、スキャンデータの印刷を開始する前に、ライン # T D L 1 ～ライン # T D L 8 からなるダミーライン T D L を偶数用インターレースメモリ 2 4 の先頭に付加する。ダミーライン T D L を付加するのは、上述したように有効印刷範囲との関係で、印刷開始後の 8 ラインは、正常な印刷ができないためである。このため、インク吐出ノズルからインクの吐出をしないデータ、つまり、N U L L データを書き込んだダミーライン T D L を用意する。

【 0 0 9 0 】

同様に、図 1 7 に示すように、本実施形態に係るインターレース処理タスク 4 2 においては、スキャンデータの印刷を開始する前に、ライン # T D L 1 ～ライン # T D L 6 からなるダミーライン T D L を奇数用インターレースメモリ 2 6 の先頭に付加する。ダミーライン T D L を付加するのは、上述したように有効印刷範囲との関係で、印刷開始後の 6 ラインは、正常な印刷ができないためである。

このため、インク吐出ノズルからインクの吐出をしないデータ、つまり、NULLデータを書き込んだダミーラインTDLを用意する。但し、これらインターレースメモリ24、26にダミーラインTDLをセットするのは、そのコピー印刷を開始する際の1回だけである。

【0091】

次に図15に示すように、インターレース処理タスク42は、次の印刷パスで奇数ドットを印刷するのか、それとも偶数ドットを印刷するのかを、決定する（ステップS30）。続いて、インターレース処理タスク42は、次の印刷パスで奇数ドットを印刷すると決めたかどうかを判断する（ステップS31）。偶数ドットを印刷すると決めた場合（ステップS31：No）には、偶数用インターレースメモリ24に引き抜き用ポインタをセットする（ステップS33A）。

【0092】

この引き抜きポインタのセットの仕方は、上述した第1及び第2実施形態と異なる。すなわち、図16に示すように、偶数用インターレースメモリ24の先頭から、3行おきに引き抜きポインタをセットする。すなわち、ダミーライン#TDL1から3行おきに引き抜きポインタをセットする。但し、次の引き抜きポインタをセットする際には、前回にセットした引き抜きポインタから4ライン分、副走査方向にシフトすることとなる。

【0093】

一方、奇数ドットを印刷すると決めた場合（ステップS31：Yes）には、奇数用インターレースメモリ26に引き抜き用ポインタをセットする（ステップS32A）。

【0094】

この引き抜きポインタのセットの仕方は、上述した偶数用インターレースメモリ24の場合と同様である。すなわち、図17に示すように、奇数用インターレースメモリ26の先頭から、3行おきに引き抜きポインタをセットする。すなわち、ダミーライン#TDL1から3行おきに引き抜きポインタをセットする。但し、次の引き抜きポインタをセットする際には、前回にセットした引き抜きポインタから4ライン分、副走査方向にシフトすることとなる。

【 0 0 9 5 】

次に、図 1 5 に示すように、インターレース処理タスク 4 2 は、引き抜き用ポインタからスキャンデータを取得して、印刷イメージデータを生成する（ステップ S 3 4）。そして、インターレース処理タスク 4 2 は、生成した印刷イメージデータを印刷実行処理タスク 4 0 に送信する（ステップ S 3 5）。これにより、印刷ヘッドを主走査方向に 1 回移動した印刷が行われる。

【 0 0 9 6 】

次に、ページ管理カウンタを更新する（ステップ S 3 6）。このページ管理カウンタは、1 ページ分の印刷イメージデータを生成したかどうかを判断するためのカウンタである。

【 0 0 9 7 】

続いて、インターレース処理タスク 4 2 は、このページ管理カウンタに基づいて、1 ページ分のスキャンデータの受信が終了したかどうかを判断する（ステップ S 3 7 A）。1 ページ分のスキャンデータの受信が終了した場合（ステップ S 3 7 A : Y e s）には、偶数用インターレースメモリ 2 4 と奇数用インターレースメモリ 2 6 に、印刷終了用のダミーライン B D L をセットする（ステップ S 3 7 B）。

【 0 0 9 8 】

図 1 6 の例では、スキャンデータの印刷を終了する前に、ライン # B D L 1 ~ ライン # B D L 8 からなるダミーライン B D L を偶数用インターレースメモリ 2 4 の末尾に付加する。ダミーライン B D L を付加するのは、上述したように有効印刷範囲との関係で、印刷終了直前の 8 ラインは、正常な印刷ができないためである。このため、インク吐出ノズルからインクの吐出をしないデータ、つまり、N U L L データを書き込んだダミーライン T D L を用意する。

【 0 0 9 9 】

同様に、図 1 7 に示すように、スキャンデータの印刷を終了する前に、ライン # B D L 1 ~ ライン # B D L 6 からなるダミーライン B D L を奇数用インターレースメモリ 2 6 の末尾に付加する。ダミーライン B D L を付加するのは、上述したように有効印刷範囲との関係で、印刷終了直前の 6 ラインは、正常な印刷がで

きないためである。このため、インク吐出ノズルからインクの吐出をしないデータ、つまり、NULLデータを書き込んだダミーラインTDLを用意する。

【0100】

次に、図15に示すように、インターレース処理タスク42は、ダミーラインBDLの最後まで印刷を行う（ステップS37C）。すなわち、図16に示す偶数用インターレースメモリ24においては、3ラインおきに引き抜きポインタをセットしながら、1回の印刷パスが終わる毎に4ライン分シフトして、ダミーライン#BDL8まで印刷を行う。これにより、スキャンデータの最後のライン#nまで正常な印刷結果を得ることがができる。

【0101】

また、図17に示す奇数用インターレースメモリ26においては、3ラインおきに引き抜きポインタをセットしながら、1回の印刷パスが終わる毎に4ライン分シフトして、ダミーライン#BDL8まで印刷を行う。これにより、スキャンデータの最後のライン#nまで正常な印刷結果を得ることがができる。これにより、インターレース処理タスク42の処理が終了する。

【0102】

一方、図15に示すように、1ページ分のスキャンデータが終了していない場合（ステップS37A：No）には、インターレースメモリ18aに、次のインターレース処理を行うのに必要なスキャンデータが格納されているかどうかを判断する（ステップS38）。

【0103】

次のインターレース処理を行うのに必要なスキャンデータが、インターレースメモリ18aに格納されていると判断した場合（ステップS38：Yes）には、上述したステップS30からの処理を繰り返す。

【0104】

一方、次のインターレース処理を行うのに必要なスキャンデータが、インターレースメモリ18aに格納されていないと判断した場合（ステップS38：No）には、スキャナ処理タスク41へ、次の転送要求を送信する（ステップS39）。そして、このインターレース処理タスク42をひとまず終了する。この場合、上

述したスキヤナ処理タスク 4 1 から転送完了通知が発信されることにより、このインタレース処理タスク 4 2 はステップ S 3 0 から再起動される。

【 0 1 0 5 】

以上のように、本実施形態に係るマルチファンクションプリンタ 5 によっても、上述した第 1 及び第 2 実施形態と同様に、スキャンデータの偶数ビットと奇数ビットとを、それぞれ、偶数用インタレースメモリ 2 4 と奇数用インタレースメモリ 2 6 とに振り分けて格納したので、インタレース処理タスク 4 2 ではスキャンデータを偶数ビットと奇数ビットに振り分ける必要がなくなる。このため、高解像度印刷であっても、プリンタエンジン 2 2 の最大スループットで印刷を行うことができる。プリンタのキャリッジ移動を停止させることなく、スキヤナ機構部 1 0 で読み取ったスキャンデータを印刷することができるようになる。つまり、プリンタの印刷ヘッドを搭載したキャリッジの主走査を停止させることなく、スキヤナ機構部 1 0 で読み取ったスキャンデータを印刷することができるようになる。

【 0 1 0 6 】

また、本実施形態においても、スキャンデータを偶数ビットと奇数ビットとに振り分ける処理を、スキヤナ A S I C 1 2、つまりハードウェアで行うこととしたので、C P U 1 6 を 1 つしか備えていないマルチファンクションプリンタ 5 であっても、高速に処理することができる。特に、C P U 1 6 の処理速度が十分でない場合であっても、従来より短い印刷時間を実現することができる。

【 0 1 0 7 】

なお、本発明は上記実施形態に限定されず種々に変形可能である。例えば、上述した各実施形態においては、1 ドットの印刷イメージデータを、1 ビットのデータから生成することとしたが、これに限るものではない。すなわち、1 ドットの印刷イメージデータを、2 ビット等（例えば、0 0、0 1、1 0、1 1）の多値データに基づいて生成するようにしてもよい。この場合、1 つのドットについて、大ドット、中ドット、小ドット、ドット無しの 4 つのパターンが存在することになる。

【 0 1 0 8 】

また、上述した各実施形態においては、スキャンデータの1つのラインを2回の印刷パスで印刷する場合を説明したが、スキャンデータの1つのラインを3回、4回…の印刷パスで印刷する場合でも、本発明を適用することができる。この場合、これに合わせて、インターレースメモリ18aを、3個、4個…に区分し、これに合わせてスキャナASIC12がスキャンデータを振り分けるようにすればよい。

【0109】

さらに、上述した各実施形態においては、マルチファンクションプリンタ5は印刷用紙に印刷されたラインとラインとの間を、別のラインで再び印刷するインターレース処理を行っているが、このインターレース処理は本発明において必ずしも必要なものではない。つまり、インターレース処理をしないマルチファンクションプリンタについても、本発明を適用することができる。

【0110】

さらに、上述した実施形態においては、スキャンデータの振り分け処理を、スキャナASIC12で構成したが、これを他のハードウェア機構又はソフトウェア機構で構成してもよい。

【0111】

さらに、高解像度印刷をする仕組みは、上述した実施形態に限るものではない。印刷用紙上の解像度よりも印刷ヘッドのインク吐出ノズルの解像度の方が粗く、複数回の印刷パスで印刷用紙上の印刷が完成する仕組みのプリンタであれば、本発明を適用することができる。

【0112】

また、上述した実施形態においては、スキャンデータに基づいて、プリンタエンジン22で印刷可能な印刷データを生成するための処理が、高解像度印刷のためのビット振り分け処理である場合を説明したが、スキャンデータに対して他の処理を施すことによりプリンタエンジン22で印刷可能な印刷データを生成する場合でも、本発明を適用することができる。例えば、第3実施形態において、図18に示すように、3ライン毎にスキャンデータを取り出すインターレース処理をした上で、スキャナASIC12でスキャンデータを偶数ビットと奇数ビットと

に分けるとともに、プリンタ用RAM18に格納するようにしてもよい。このようにすれば、プリンタ用RAM18には、印刷パスの順にスキャンデータが格納されることとなる。このため、印刷の際にはCPU16では、インターレース処理も不要になり、プリンタ用RAM18の上から4ラインずつ、スキャンデータを取り出して、印刷を行えば足りるようになる。

【0113】

また、別な例としては、上述した第1乃至第3実施形態において、偶数ビットと奇数ビットとを抜き出す処理を行わず、インターレース処理だけを行うマルチファンクションプリンタに対しても、本発明を適用することができる。この場合、例えば、第3実施形態においては、3ライン毎にスキャンデータを取り出すインターレース処理をした上で、プリンタ用RAM18に格納するようにしてもよい。このようにすれば、マルチファンクションプリンタは、印刷の際にプリンタ用RAM18の上から順に4ラインずつ、スキャンデータを取り出して印刷を行えば足りる。なお、この場合、3ライン毎にスキャンデータを取り出すインターレース処理のための振り分けは、スキャナASIC12で行ってもよいし、CPU16で行ってもよい。

【0114】

さらに、上述した実施形態においては、同一ラインの中で偶数ビットを奇数ビットよりも先に印刷するようにしたが、これを逆にして、奇数ビットを偶数ビットよりも先に印刷するようにしてもよい。

【0115】

また、上述した実施形態においては、印刷媒体が印刷用紙である場合を例に説明したが、OHPシート等の他の印刷媒体であってもよい。

【0116】

また、上述の実施形態で説明した印刷実行処理タスク40、スキャナ処理タスク41、及び、インターレース処理タスク42等の各タスク処理については、これら各処理を実行するためのプログラムをフロッピーディスク、CD-ROM (Compact Disc-Read Only Memory)、ROM、メモリカード等の記録媒体に記録して、記録媒体の形で頒布することが可能である。この場合、このプログラムが記

録された記録媒体をマルチファンクションプリンタ 5 に読み込ませ、実行させることにより、上述した実施形態を実現することができる。

【0 1 1 7】

また、マルチファンクションプリンタ 5 は、オペレーティングシステムや別のアプリケーションプログラム等の他のプログラムを備える場合がある。この場合、マルチファンクションプリンタ 5 の備える他のプログラムを活用し、記録媒体にはそのマルチファンクションプリンタ 5 が備えるプログラムの中から、上述した実施形態と同等の処理を実現するプログラムを呼び出すような命令を記録するようにしてもよい。

【0 1 1 8】

さらに、このようなプログラムは、記録媒体の形ではなく、ネットワークを通じて搬送波として頒布することも可能である。ネットワーク上を搬送波の形で伝送されたプログラムは、マルチファンクションプリンタ 5 に取り込まれて、このプログラムを実行することにより上述した実施形態を実現することができる。

【0 1 1 9】

また、記録媒体にプログラムを記録する際や、ネットワーク上を搬送波として伝送される際に、プログラムの暗号化や圧縮化がなされている場合がある。この場合には、これら記録媒体や搬送波からプログラムを読み込んだマルチファンクションプリンタ 5 は、そのプログラムの復号化や伸張化を行った上で、実行する必要がある。

【0 1 2 0】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、スキャンデータをデータ格納部に格納する際に、印刷イメージデータを生成するのに適するように分割して格納するようにしたので、印刷イメージデータを生成するのに要する処理時間を短くすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の一実施形態に係るマルチファンクションプリンタの内部構成を示すブ

ロック図である。

【図 2】

図 1 のマルチファンクションプリンタが備える各種のタスクを説明するブロック図である。

【図 3】

本実施形態に係るスキャナ処理（スキャナ処理タスク）の内容を説明するフローチャートである。

【図 4】

本実施形態に係るスキャナ A S I C で実行される振り分け処理の内容を説明するフローチャートである。

【図 5】

図 4 に示す振り分け処理を実現するためのハードウェア構成の一例を示す図である。

【図 6】

本実施形態に係るインターレース展開処理（インターレース処理タスク）の内容を説明するフローチャートである。

【図 7】

偶数用インターレースメモリと奇数用インターレースメモリとから、インターレース処理された印刷イメージデータを生成する処理を説明する図である。

【図 8】

本実施形態に係る印刷実行処理（印刷実行処理タスク）の内容を説明するフローチャートである。

【図 9】

本発明の第 2 実施形態に係るスキャナ A S I C で実行される振り分け処理の内容を説明するフローチャートである。

【図 1 0】

図 9 に示す振り分け処理で用いられる偶数用ルックアップテーブルの構成の一例を示す図である。

【図 1 1】

図 9 に示す振り分け処理で用いられる奇数用ルックアップテーブルの構成の一例を示す図である。

【図 1 2】

インターレース処理の処理概念を説明するための図である。

【図 1 3】

高解像度印刷で偶数ドットと奇数ドットを 2 回の印刷パスで印刷する場合を説明する図である。

【図 1 4】

本発明の第 3 実施形態に係る高精細印刷の手法を説明する概念図である。

【図 1 5】

本発明の第 3 実施形態に係るインターレース展開処理（インターレース処理タスク）の内容を説明するフローチャートである。

【図 1 6】

第 3 実施形態に係る偶数用インターレースメモリに形成されるスキャンデータの構成を説明する図である。

【図 1 7】

第 3 実施形態に係る奇数用インターレースメモリに形成されるスキャンデータの構成を説明する図である。

【図 1 8】

本発明の第 3 実施形態における一変形例を説明する図である。

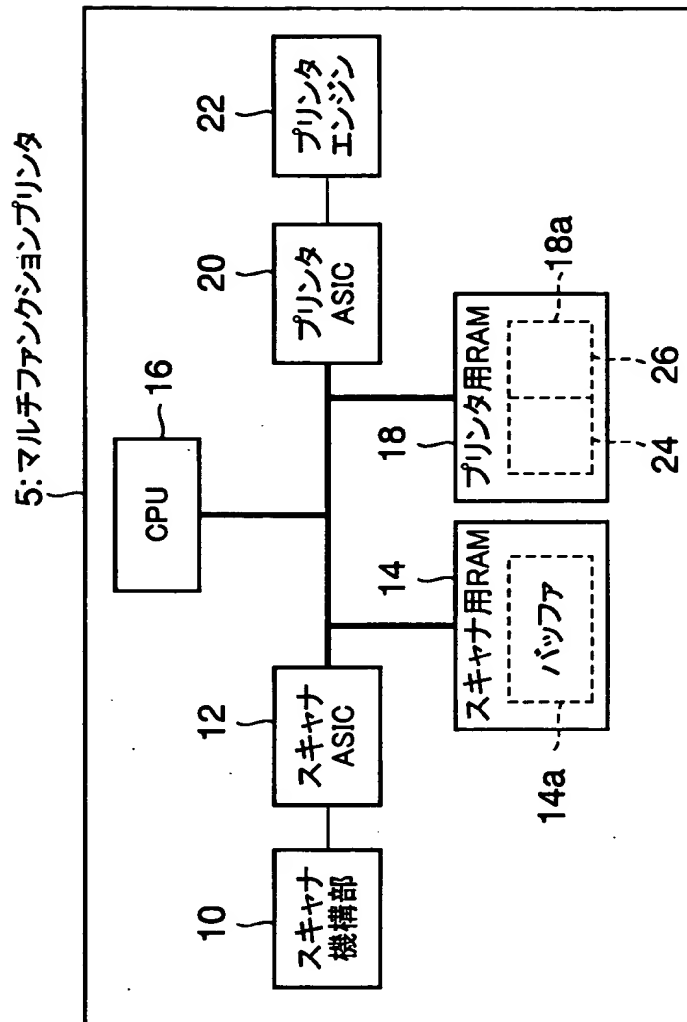
【符号の説明】

- 5 マルチファンクションプリンタ
- 10 スキャナ機構部
- 12 スキャナ A S I C
- 14 スキャナ用 R A M
- 14 a バッファ
- 16 C P U
- 18 プリンタ用 R A M
- 18 a インターレースメモリ

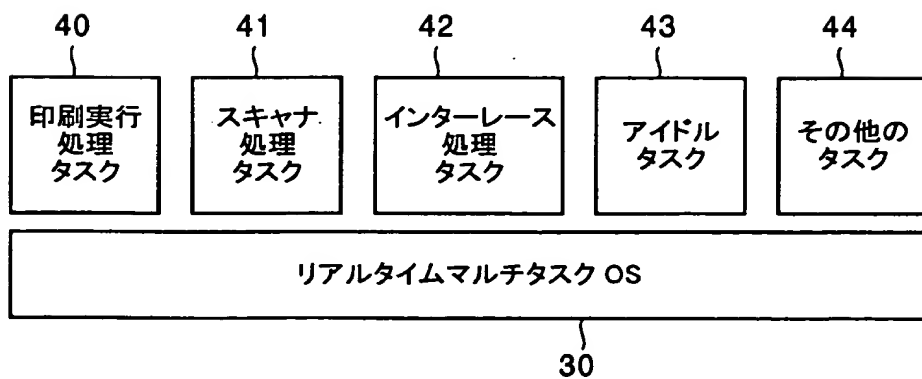
- 2 0 プリンタ A S I C
- 2 2 プリンタエンジン
- 2 4 偶数用インターレースメモリ
- 2 6 奇数用インターレースメモリ
- 3 0 リアルタイムマルチタスク O S
- 4 0 印刷実行処理タスク
- 4 1 スキャナ処理タスク
- 4 2 インターレース処理タスク
- 4 3 アイドルタスク
- 4 4 その他の処理タスク

【書類名】 図面

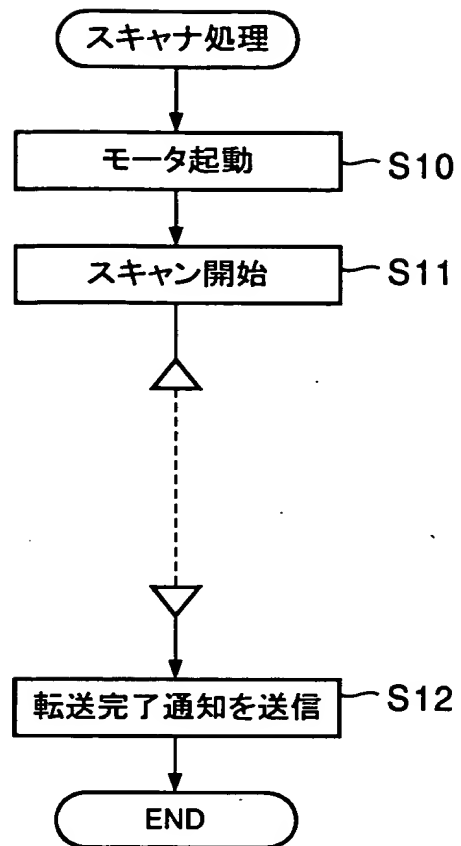
【図 1】



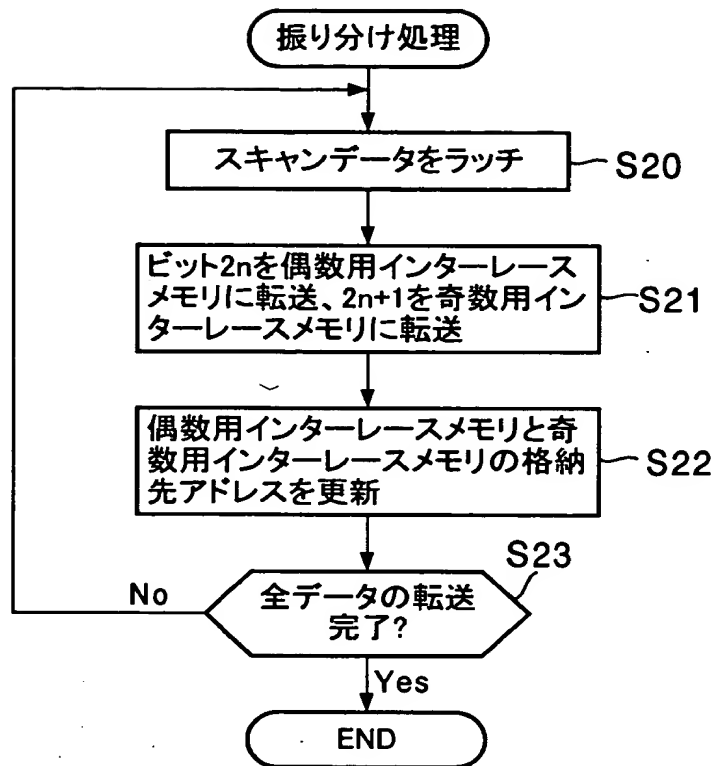
【図 2】



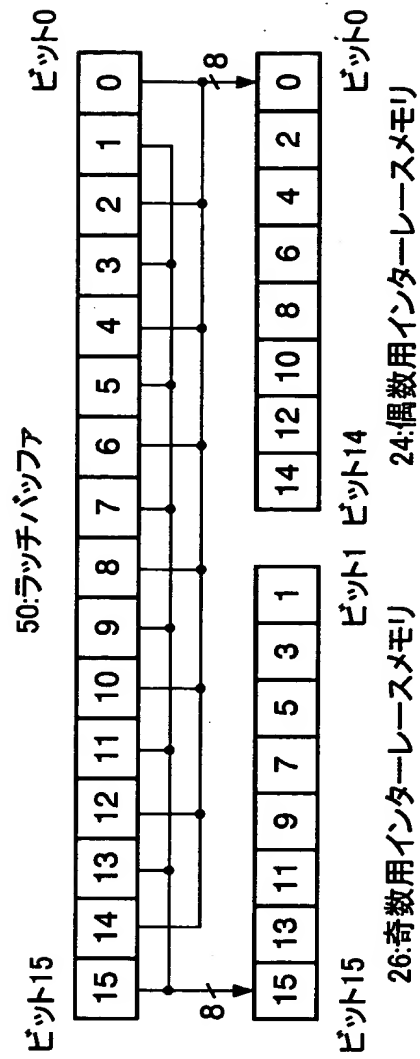
【図 3】



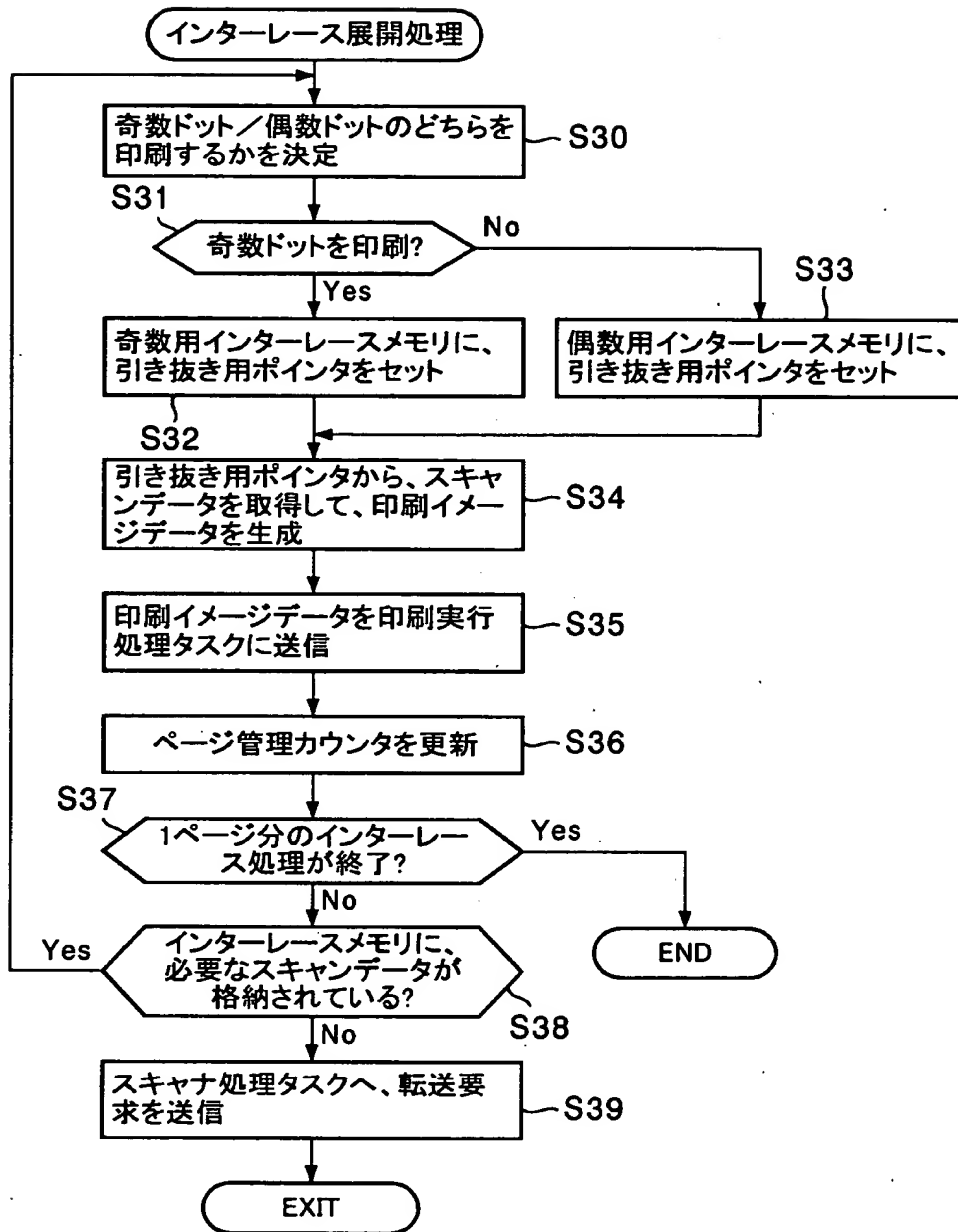
【図 4】



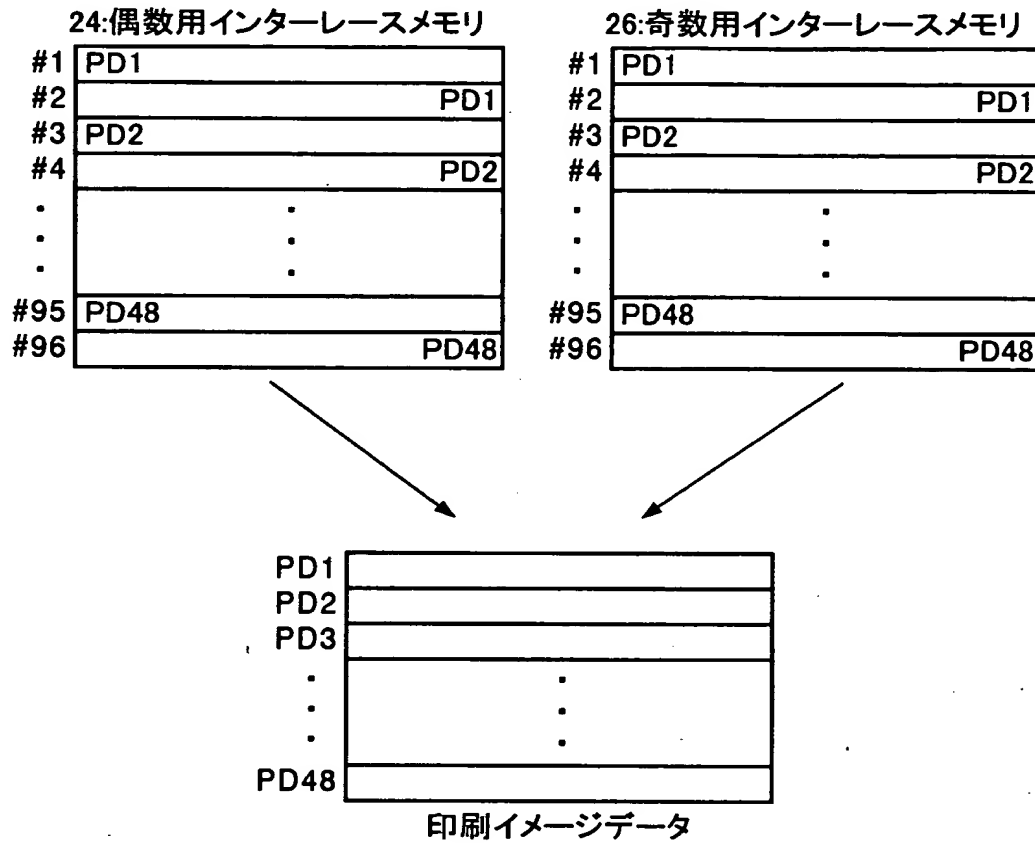
【図 5】



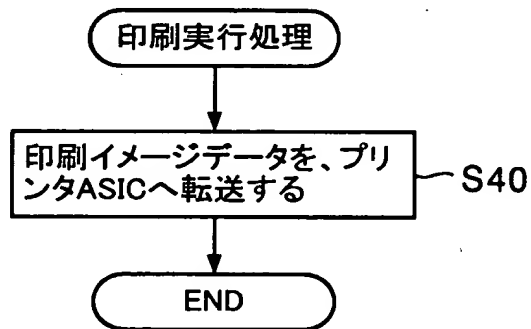
【図 6】



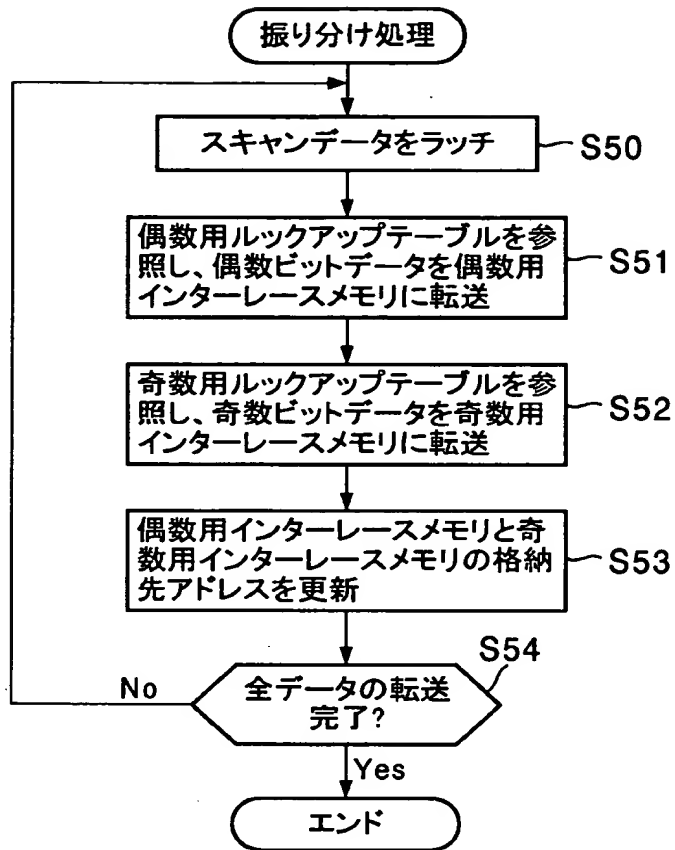
【図 7】



【図 8】



【図 9】

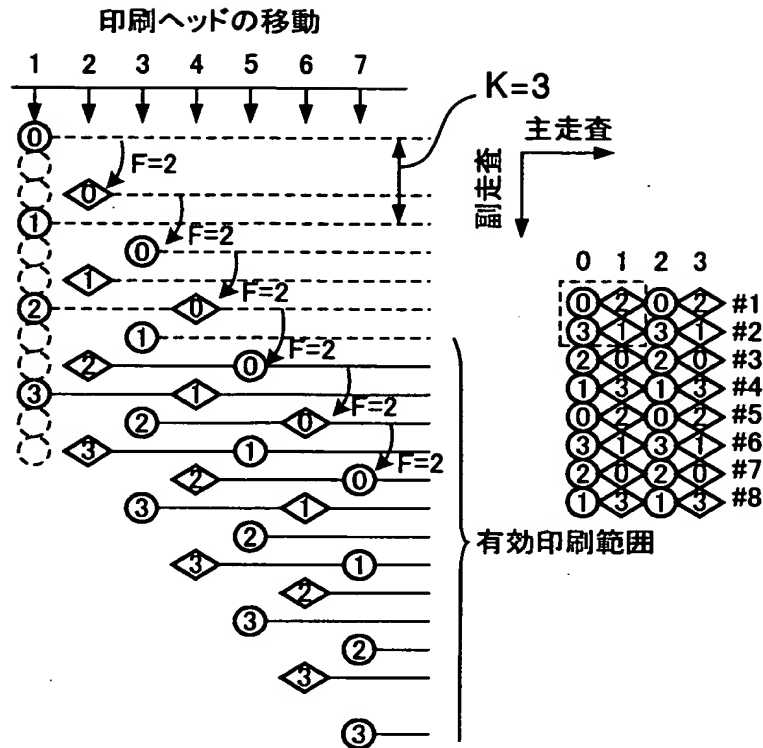


【図 1 0】

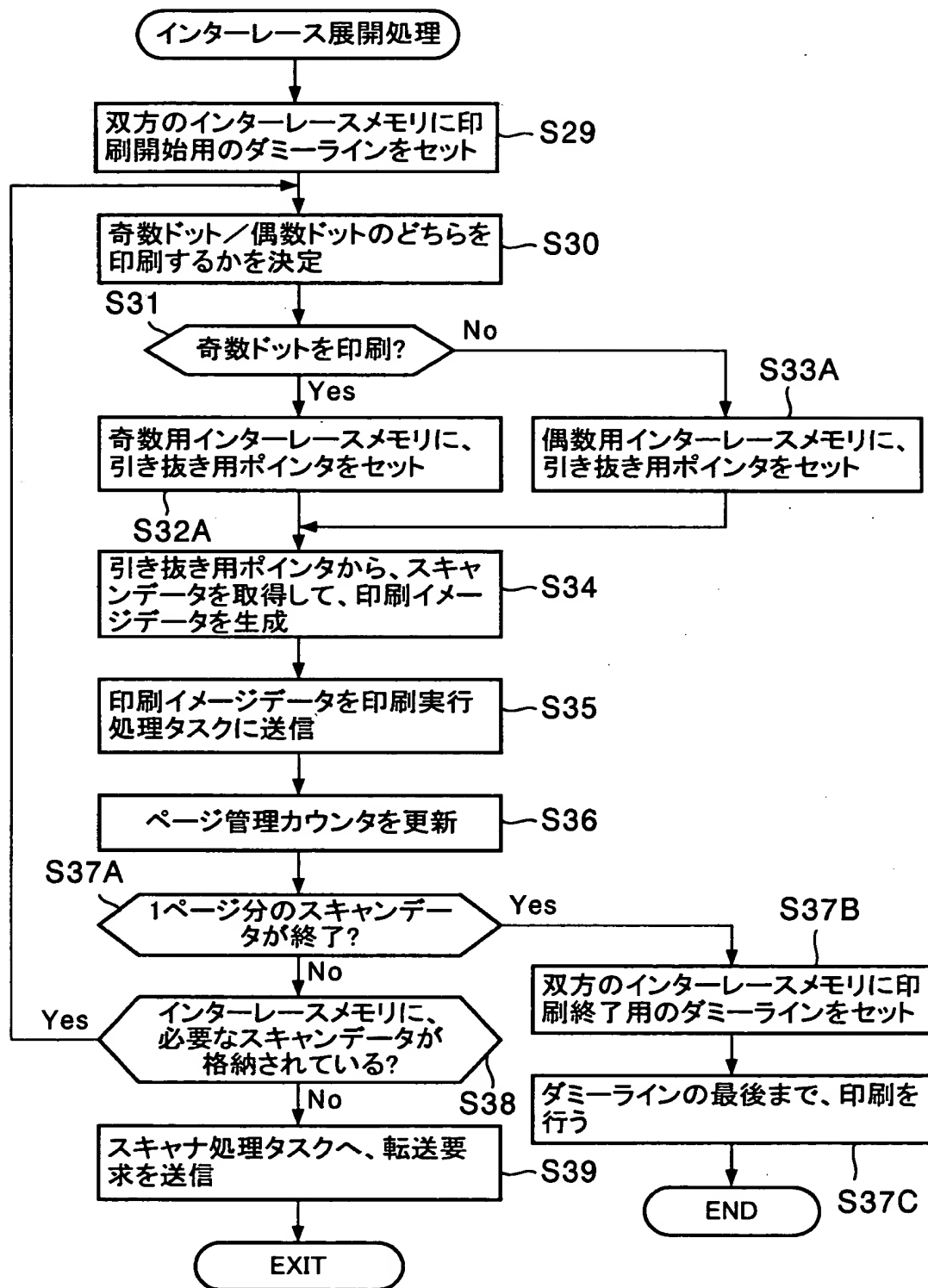
TB0: 偶数用ルックアップテーブル

スキャンデータ	偶数ビットデータ
0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0
0 0 0 0 0 0 0 1	0 0 0 1
0 0 0 0 0 0 1 0	0 0 0 0
⋮	⋮
0 0 1 1 0 1 0 0	0 1 1 0
0 0 1 1 0 1 0 1	0 1 1 1
0 0 1 1 0 1 1 0	0 1 1 0
⋮	⋮
1 1 1 1 1 1 0 1	1 1 1 1
1 1 1 1 1 1 1 0	1 1 1 0
1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1

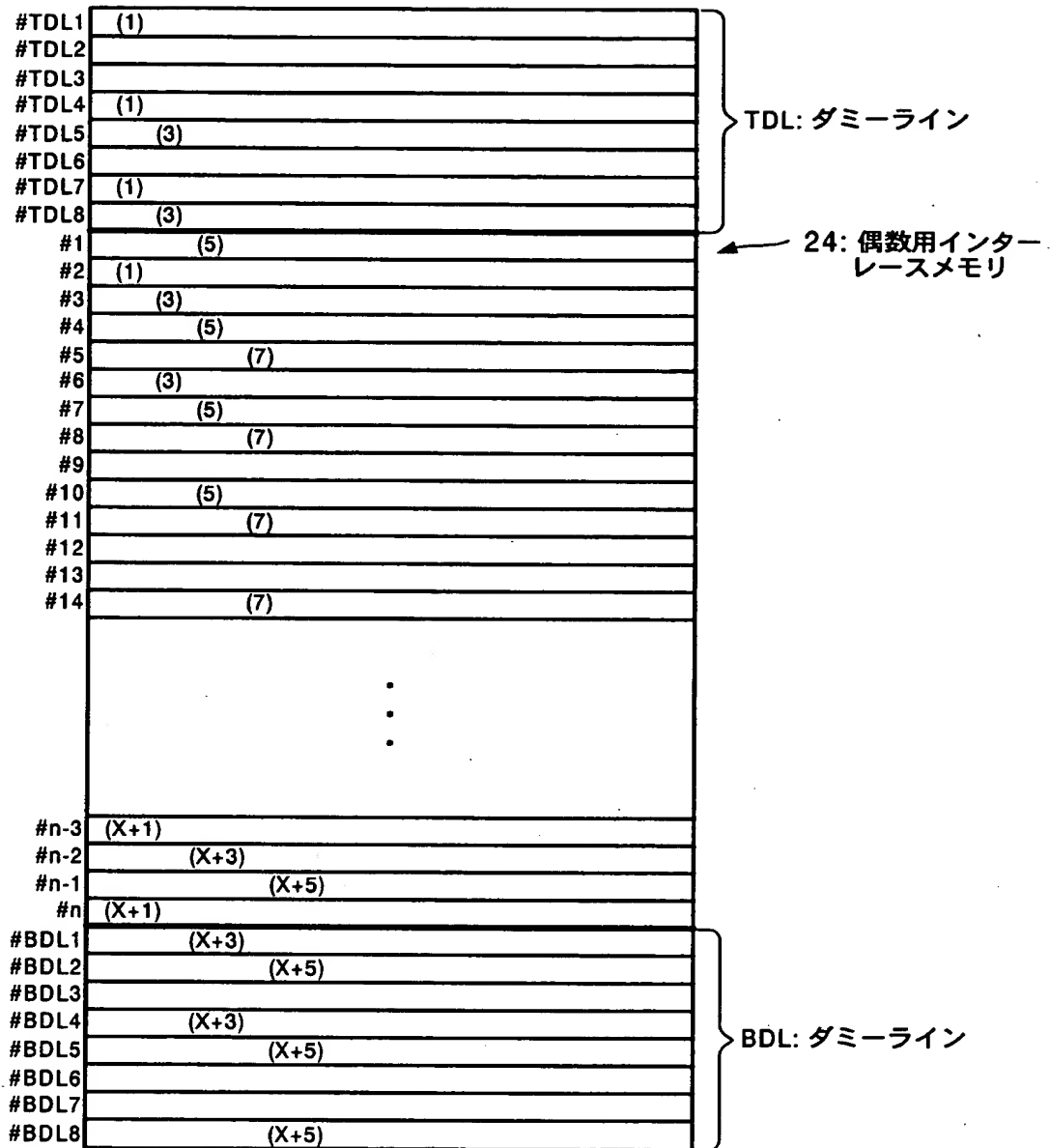
【図 14】



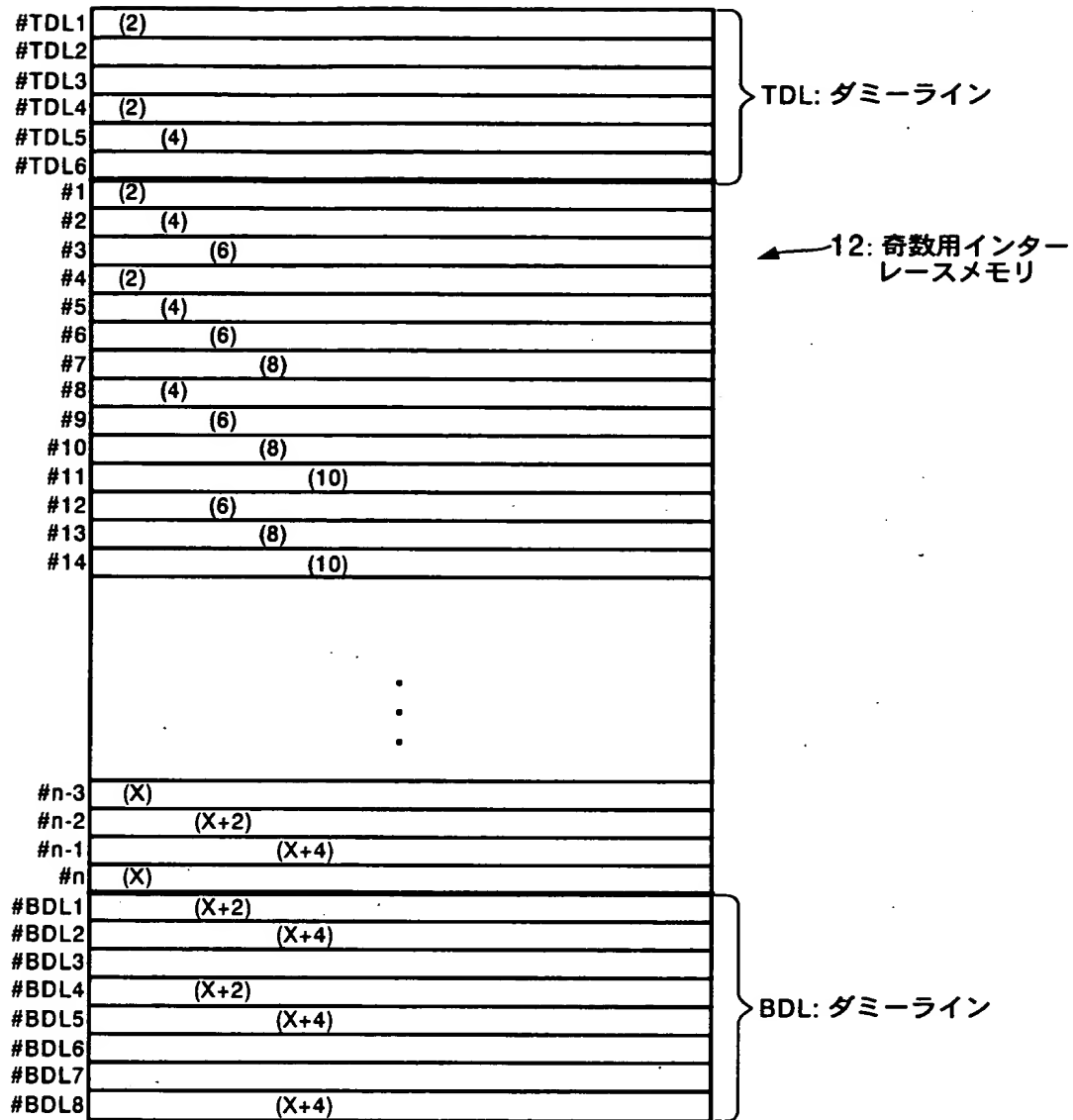
【図15】



【図 16】



【図 17】



【図 18】

18: プリンタ用RAM

1	NULL
	NULL
	NULL
	ライン#2 (偶数)
2	NULL
	NULL
	ライン#1 (奇数)
	ライン#4 (奇数)
3	NULL
	NULL
	ライン#3 (偶数)
	ライン#6 (偶数)
4	NULL
	ライン#2 (奇数)
	ライン#5 (奇数)
	ライン#8 (奇数)
5	ライン#1 (偶数)
	ライン#4 (偶数)
	ライン#7 (偶数)
	ライン#10 (偶数)
6	ライン#3 (奇数)
	ライン#6 (奇数)
	ライン#9 (奇数)
	ライン#12 (奇数)
	⋮

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 高解像度印刷における印刷待ち時間を可及的に短くする。

【解決手段】 スキャナ機構部 1 0 でスキャンしたスキャンデータの偶数ビットを、偶数用インターレースメモリ 2 4 に格納し、スキャンデータの奇数ビットを奇数用インターレースメモリ 2 6 に格納する。インタレース処理タスク 4 2 は、印刷イメージデータを生成するのにあたり、偶数ビットのスキャンデータを偶数用インターレースメモリ 2 4 から読み出し、奇数ビットのスキャンデータを奇数用インターレースメモリ 2 6 から読み出すだけですむので、インタレース処理を迅速に行うことができる。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 1 - 3 0 8 6 5 5
受付番号	5 0 1 0 1 4 7 4 3 0 0
書類名	特許願
担当官	第七担当上席 0 0 9 6
作成日	平成 1 3 年 1 0 月 1 0 日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】 000002369

【住所又は居所】 東京都新宿区西新宿 2 丁目 4 番 1 号

【氏名又は名称】 セイコーエプソン株式会社

【代理人】 申請人

【識別番号】 100075812

【住所又は居所】 東京都千代田区丸の内 3 - 2 - 3 協和特許法律事務所

【氏名又は名称】 吉武 賢次

【選任した代理人】

【識別番号】 100088889

【住所又は居所】 東京都千代田区丸の内 3 丁目 2 番 3 号 協和特許法律事務所

【氏名又は名称】 橘谷 英俊

【選任した代理人】

【識別番号】 100082991

【住所又は居所】 東京都千代田区丸の内 3 丁目 2 番 3 号 富士ビル
協和特許法律事務所

【氏名又は名称】 佐藤 泰和

【選任した代理人】

【識別番号】 100096921

【住所又は居所】 東京都千代田区丸の内 3 - 2 - 3 富士ビル 3 階
協和特許法律事務所

【氏名又は名称】 吉元 弘

【選任した代理人】

【識別番号】 100103263

【住所又は居所】 東京都千代田区丸の内 3 丁目 2 番 3 号 協和特許法律事務所

次頁有

認定・付加情報（続き）

【氏名又は名称】	川崎 康
【選任した代理人】	
【識別番号】	100107582
【住所又は居所】	東京都千代田区丸の内3丁目2番3号 協和特許 法律事務所
【氏名又は名称】	関根 毅

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000002369]

1. 変更年月日	1990年 8月20日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都新宿区西新宿2丁目4番1号
氏 名	セイコーエプソン株式会社